

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

1

男子 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立富岡東高等学校	18	8	7	大谷高等学校
		10	9	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

2回戦、関東ブロック代表第1シードの県立富岡東高校と近畿ブロック代表の大谷高等学校の対戦となった。富岡東③番のシュートで先制点をあげる。直ぐに、大谷⑥番もシュートを決める。富岡東が速攻で2連続得点を決め、前半7分3対1で大谷TO。両チームとも、速い攻撃で攻めるも好ディフェンス、富岡東⑫番、大谷①番のキーパーの好セーブもあり得点があまり入らず、前半20分6対3となる。大谷⑤番のシュートで得点をあげるが、富岡東⑩番の連続3得点で、前半23分8対5で2回目の大谷TO。大谷③番のポストプレーで追い上げ前半8対7で、富岡東1点のリードで終える。

後半開始早々、大谷⑤番のミドルが決まるも、すかさず富岡東⑩番もミドルで得点をあげる。後半3分、5分、8分に大谷④番⑥番③番と3人の退場者をだすが、ディフェンスで良く粘る。富岡東④番が連続得点を重ね、大谷③番④番が得点を重ねる。後半20分16対13で大谷がTO。後半27分17対15。富岡東粘りのディフェンスで、大谷になかなかシュートをさせない。富岡東④番のシュート。残り1分で18対16となる。富岡東2点のリード。その後2点差を守り、18対16で試合を終了する。富岡東3回戦に進出を決めた。

30年 3月 25日

記載者氏名 中野 健

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

2

男子 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸

Bコート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立華陵高等学校	31	16	7	静岡市立清水桜が丘高等学校
		15	13	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

2回戦、第1試合は16回目の出場となる山口県代表華陵高校と4年ぶり2回目の出場となる

静岡県代表清水桜が丘高校の対戦。前半開始40秒、華陵⑦のミドルシュートにより先制点を挙げる。

その後、桜が丘も1点を取り返すが、華陵⑤のサイドシュートや⑨のポストシュート等で着実に得

点を重ね、8対1とする。ここで清水桜が丘がタイムアウトをとり、立て直しを図る。桜が丘③の速攻

⑥のカットインシュート等が決まり、4点差まで詰め寄るも、華陵の堅い守りになかなか得点を伸ば

せず、前半を16対7で折り返す。後半開始清水桜が丘⑬、②のサイドからの連続得点や、GKの好セ

ーブにより流れを掴みかけるが、すぐさまその流れは華陵⑤のサイドシュートや⑦のミドルシュート

による得点で断ち切られる。その後も桜が丘は果敢に速攻をしかけ、積極的にシュートを狙い、反撃を

しかける。しかし、華陵は慌てることなく、前半同様堅い守りとスピードある速攻を中心とし、どの

ポジションからも幅広く得点を重ねる。結果、31対20で清水桜が丘に一度もリードを許すことな

く、華陵が勝利を収めた。

2018年 3月 25日

記載者氏名 名明 千佳

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女12

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 加古川市立総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立今治東中等教育高等学校	17	[10 — 14 7 — 14 — — — 7mTC	県立浦添高等学校
]	28	

浦添高校 13番伊波の強烈なミドルシュートで幕を開けた大会2日目第1試合、対する今治

東もすぐさま10番曾我部のシュートで同点に追いつく。前半15分ごろまでお互い1点を取り

合う展開が続くが20分ごろから少しずつ試合が動き始める。浦添高校 16番松岡のナイスセー

ブ、11番山田のミドルシュートなどで一時リードを4点まで広げる。その後今治東も3番宇治

村の2連続得点などで点差を2点とするが、浦添高校の勢いを止められず前半は浦添高校4点リ

ードで折り返す。後半開始早々今治東は2分間退場でコートプレーヤーが5人になるピンチを迎

えるが12番宇都宮のセーブなどでここを1失点でしのぐ。これにより流れを掴んだかに思われ

たが、浦添高校は15番松本のインターセプトからのワンマン速攻を含む5連続得点で一気にリ

ードを8点に広げる。今治東2番木村のミドルシュートなどで対抗するものの、GK松岡を中心

とした強固なDF、13番伊波を中心とした爆発力のあるOFで終始リードを保ったまま浦添高

校がこの試合に勝利した。

30年 3月 25日

記載者氏名 中村 健斗

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

1

男子 ・ 女子 (2回戦) ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 高砂市総合体育館

チーム名	総得点	19	—	13	総得点	チーム名
駿台甲府	35	16	—	19	32	高岡向陵
		—		—		
		—		—		
		—		—		
		7mTC				

初戦で松山工業を下した高岡向陵と駿台甲府との対戦。駿台甲府のスローオフで対戦開始。

序盤、互いに点を取り合う互角の展開となった。試合の流れが変わったのは10分ごろ、同点の場面から駿台甲府が3番 久保寺のシュートを皮切りに3連続得点を挙げ、リードを3点に広げた。ここで追いつきたい高岡向陵はチームタイムアウト後、3番 井上、10番 村藤を中心に得点を重ね、1点差としたが、5分ごろから駿台甲府が怒涛の反撃。2番 佐藤、8番 植松の連続得点で5連続得点を挙げ、6点差で前半を終了した。

後半立ち上がりは前半同様、互いに点を重ねる展開となった。点差を縮めたい高岡向陵は確実にチャンスをもたせて得点するが、駿台甲府も安定した攻撃力を見せ流れをつかませず、均衡を保ったまま試合は終盤を迎えた。20分を過ぎたころ、高岡向陵は積極的なディフェンスと7人攻撃でチャンスを作り徐々に点差を縮めた。しかし、猛攻も一歩及ばず。攻守に安定感を見せた駿台甲府がリードを守り切り、35-32で勝利した。

30年 3月 25日
 記載者氏名 和田尚也

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男6

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点				総得点	チーム名	
神戸国際大附高校	<u>38</u>	[19	—	10]	山形中央高校
			19	—	11		
			—	—	—		
			—	—	—		
			—	—	—		
			7mTC				
					<u>21</u>		

大会2日目第一試合。地元兵庫県代表の神戸国際大附と、選抜初出場を掴んだ山形県代表の山形中央の一戦。神戸国際のスローオフ。開始直後32秒、DFの間を割った3番梶山が、キーパーの顔横を抜く技ありのシュートを放ち神戸国際が先制。その後も神戸国際は7番小竹の、13番竹内らで4連取に成功。最高のスタートを切る。山形中央は4分20秒、ルーズボールを押し込んだ3番柴田のゴールで選抜初得点。前半序盤、神戸国際はスピーディーな速攻、2番仲舟井のミドル、GK矢村の好セーブなどで流れを掴み、8対3としたところで山形中央T0。T0後山形中央は2番早坂、10番岡崎らで得点していくが、神戸国際は2番仲舟井のスカイプレー、6番西田のループシュートなどで要所に得点。15番井上の連続得点などで食い下がる山形中央であったが、前半は19対10の神戸国際リードで折り返す。後半序盤は互いに点の取り合い。15番井上の得点、14番安食の巧みなパス回しで見せ場を作る山形中央であったが、6番西田の速攻、11番中村の得点、1番GK田重田の好セーブなどでリードを広げた神戸国際が、地元の大応援団の声援に見事応える盤石のゲーム運びで初戦を突破した。

30年 3月 25日

記載者氏名 山本 紘輝

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦評用紙

11

男子・女子 2 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 神戸市立中央体育館

コート

浦和学院	26	12	—	10	24	県立小松工業
		14	—	14		
		—				
		—				
		—				
		7mTC				

両チームとも本大会初戦となる、DFからゲームを作っていくチームカラー同士の対戦。小松工スローオフで試合開始。浦学No.13

長身狩野のロングシュートで試合が動き始める。直後、小松工No.2 土山のシュートで反撃。その後は浦学 DF が厳しいチェックでリス

ムを作り、No.2 比留間のシュートなどで4連続得点。9分46秒、小松工 TO。ワイドに動くようになった小松工は、コンビネーショ

ンプレーからNo.11 市川、速攻の応戦からNo.9 朝倉のシュートなど3連続得点。押されかけていた浦学は DF のリズムが戻り、傾きか

けていた流れを食い止める。浦学はNo.15 豊増の執念でねじ込むようなポストシュート、小松工は終了間際に7mスローを得るなど、

一進一退の互角の勝負。前半は2点差で終了した。

後半に入っても互角の攻め合い、守り合いが続く。浦学No.13 狩野の力強いミドルで先制するも、DFの動きが良かった小松工は

粘り強く耐える。浦学フリースローをブロックから速攻につなぎ、No.9 朝倉がループで決めるなど、「守って速攻」の小松工本来の姿

となり、連続得点。17分41秒、朝倉のサイドで、ついに小松工は同点に追いついた。浦学 TO 後、No.3 田中のロング、GK小俣

の好セーブで勢いを手繰り寄せた。No.7 波多野の連続得点後、小松工は7mスローで1点差に迫るが、終了間際に浦学No.15 豊増の

シュートで小松工を突き放す。浦学が小松工との激戦を制した。

30年 3月 25日

記載者氏名 沖野 勝洋